

かみしばい はなし つた  
紙芝居とお話で伝える

み と くうしゅう こうどうかん  
水戸空襲と弘道館



いま ねんまえ しょうわ 20年(1945)8月2日の未明、水戸のまちは空襲によ  
ってほとんどが焼き尽くされました。弘道館も八卦堂や孔子廟などが焼けてしまいま  
した。空襲とはどのようなものなのか、紙芝居とお話で伝えます。みんなで平和の大  
切さについて考えてみましょう。ぜひ親子でもご参加ください。



日時：令和5年7月29日(土) 13:30 ~ 15:15 (開場 13:00)

会場：茨城県立図書館2階視聴覚ホール(紙芝居はスクリーンでうつします)

参加費  
無料



内容：紙芝居 ある紙芝居屋の物語～それでも黄金バットはやってくる  
次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ メンバー(40分)

朗 読 新川和江「にがく、酸い青春(『少女たちの戦争』より)」ほか  
見澤淑恵(次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ 代表)(10分)

講 演 深夜の水戸に爆弾の雨～その時市民たちは…  
玉川里子(元水戸市立博物館長)(30分)

解 説 弘道館にのこる水戸空襲の傷跡  
小坏のり子(弘道館主任研究員)(10分)

※図書館でのお話の後に、弘道館に残る空襲の傷跡(弘道館記碑・孔子廟など)を見学できます。

申込方法：6月20日(火)より電話受付(弘道館事務所 029-231-4725)

定員 160名・先着順

主催 茨城県水戸土木事務所  
偕楽園公園課弘道館事務所

〒310-0011 水戸市三の丸 1-6-29 ☎029(231)4725  
🌐 <https://www.ibarakiguide.jp/site/kodokan.html>

共催 茨城県立図書館

〒310-0011 水戸市三の丸 1-5-38

## ある紙芝居屋の物語～それでも黄金バットはやってくる あらすじ

1945年、昭和20年8月2日未明。茨城県水戸市の市街地は、B29による空襲で火の海と化していました。

一人のおじさんは、迫り来る熱気を背中に感じながら、生き残るために走り続けています…。

水戸空襲の場面から始まるこの物語は、一人の紙芝居屋の「おじさん」の目を通して見た「戦争」のお話です。「黄金バット」に「明智小五郎」、子どもたちはアメを片手に、悪を倒すヒーローの活躍する紙芝居を楽しみに、公園に集まって来ます。しかし、戦争が始まると国の検閲を通った「国策紙芝居」しか上演できなくなり、紙芝居は、子どもたちが「お国のために」戦える、立派な国民になるための教育手段として利用されるようになったのです。紙芝居を見て「兵隊さんになりたい」「悪い奴は殺していい」と言う子どもの姿を見て、おじさんは悩み始めます。



「子どもを戦場に送るような紙芝居をやっていいのだろうか。子供を人殺しにしているのだろうか」と。そしてとうとう紙芝居を辞め、生活のために兵器等を作る工場で働き始めます。戦争はますます激化し、



ついにおじさんたち一般市民をアメリカによる爆撃が襲います。おじさんは、火の海の中で見知らぬ子供を身を呈して守り、ひどい火傷を負いますが、命は取り止め、終戦を迎えます。ある日、おじさんは空襲の爪痕が残る空き地で、拍子木を鳴らし、紙芝居を読み始めます。すると、1人、また1人と子供が集まってくるのです。焼け落ちて何も無くなった街の片隅で、「黄金バット」の紙芝居が始まるのでした。

### ◆次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブについて◆

朗読家の見澤淑恵先生を中心に、茨城大学紙芝居研究会が制作し上演してきた戦争の紙芝居3部作を継承しながら、戦争や平和をテーマとした本や絵本、紙芝居を取り上げ、朗読することで伝えています。

## 弘道館に残る空襲の傷跡



孔子廟は空襲で焼失し、戟門のみが残されました



孔子廟の焼け跡から屋根を飾っていた鬼龍子が発見されました



八卦堂が焼失し、内部の弘道館記碑が破損しました



弘道館玄関にも焼夷弾により火がつけましたが、必死の消火活動によって焼失を免れました。現在も玄関にはその焦げ跡が残っています

## 会場詳細

# 茨城県立図書館

2階視聴覚ホール

〒310-0011 水戸市三の丸1-5-38

※できるかぎり公共交通機関をご利用願います。お車の場合は三の丸庁舎(旧県庁舎)駐車場をご利用いただき駐車券をご持参ください。

